Discover Chiba

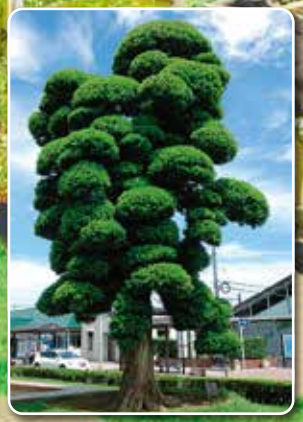
千葉が誇る日本一

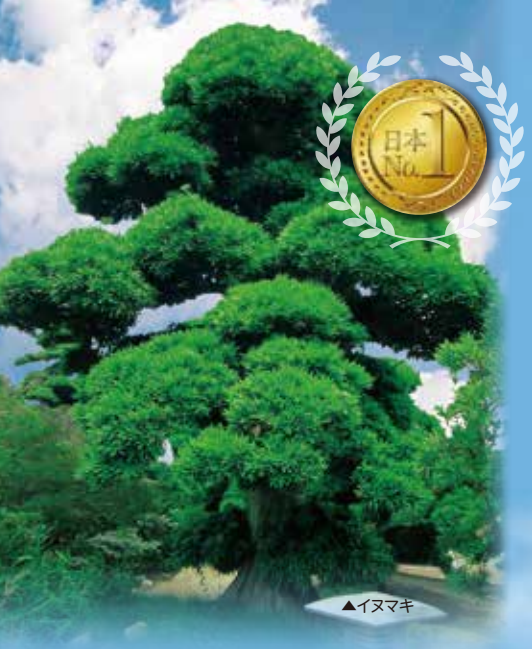
千葉県PRマスコットキャラクター チーバくん
千葉県観光客A3-45

第24回 植木

《今回の日本一》

- 植木の出荷額・輸出量
- 植木の栽培面積（匝瑳市）





▲イヌマキ

生産面積約628haを有する千葉県は

出荷額日本一!

房総半島特有の温暖な気候と、首都圏を中心とした関東地方周辺の消費地に隣接するという立地条件に恵まれた千葉県は、植木の出荷額が全国で第1位※という輝かしいランキングを誇っています。

千葉県内の植木の生産地の多くは九十九里平野沿いに広がっていて、水田地帯に盛土された「島畑(しまはた)」と呼ばれる畑で栽培されています。生産面積は、県内で約628haほどあり、マキ類、キャラボク、マツ類などが生産され、その枝振りや全体のバランスの良さなどが全国で高い評価を得ています。その中でも、徳川家康が奨励したと言われている東金市の植木生産は、ゴヨウマツに代表されるマツ類やマキ類の造形樹の生産が盛んな地域となっています。また、上総地域の植木生産は、久留里藩邸内の庭木の手入れを地元の農家が依頼されたことから始まり、キャラボクの造形樹の産地として全国的に有名になるなど、それぞれに幕府や藩主などとの深いつながりの中で発展し、その伝統は現代に受け継がれています。

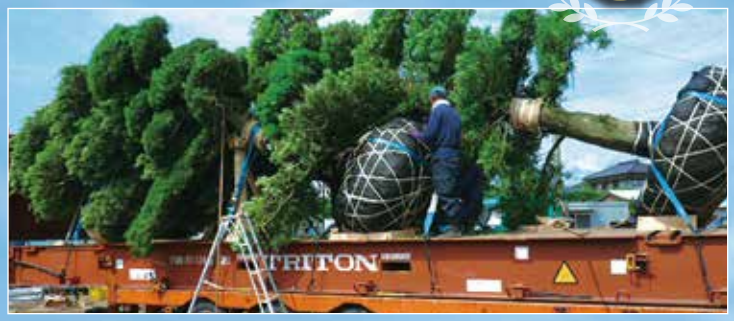
▲キャラボク

▲ゴヨウマツ

※農林水産省／平成24年花木等生産状況調査　花木類計(出荷額)　●1位　千葉県　6,791,756(千円)　●2位　福岡県　5,107,427(千円)

日本特有の造形樹が外国の富裕層を魅了。

輸出量日本一!



このところ日本から植木や盆栽の輸出が増加傾向にあり、2012年の輸出高は過去最高の81億7,000万円で前年比22.1%の伸びを記録しました。中国や香港、台湾などの東アジアや欧州への輸出が中心となっています。その植木の輸出高で日本一を誇るのも千葉県。2012年の千葉県の植木輸出額は、前年比20%増の推定33億8,000万円と、千葉県産の植木が日本からの輸出額の41%を占めています。なぜなら千葉県は、専門の植木栽培の職人が高い技術を発揮して木の枝振りや葉の付き具合をデザインし、巧みに作り上げる「造形樹」の産地として定評があるからです。海外で求められているのはまさに、日本の伝統の技なのです。とりわけ中国では、近年の経済成長を背景に、マキの造形樹が人気となっています。マキの木は中国では「羅漢松(らかんしょう)」と呼ばれ、幸せを呼ぶ縁起のいい樹木とされているためです。千葉の職人たちによってうねった枝は、まるで龍のように見えて縁起が良いと、富裕層に珍重されているのです。また、欧州でも日本庭園を持つ富裕層たちに植木の需要が増加しており、イタリアやオランダなどでは、ツゲやキャラなどの小・中型樹が「Macro Bonsai(盆栽)」として親しまれています。

植木出荷額日本一を維持している

千葉県独特の伝統技術とは?

大雪の時にマキの枝が折れ曲がったことにヒントを得て、その昔、東金市の農家がノミを入れて幹を裂き、自由に枝を曲げる「割り」の技術を開発しました。

このような先人が生み出した技術は、千葉県特有の伝統的な手法で植木生産に活用され、現代へと受け継がれています。

繊細かつ大胆な匠の技!

ノミ入れは、皮目を読み枝の繊維に平行に入れます(太い枝は複数本)。その後ねじって曲げますが、曲げた後その部分を縄等できつく巻きあげ、傷口の癒合を図ります。

バラエティ豊かな道具を使いこなす!

「割り」で使うノミは、強く打ち込んでも抜きやすいように刃の中央部分が盛り上がっているなど工夫がなされています。

また、樹へのダメージを減らすために、様々なサイズや形状のノミを使い分けます。

植木の生産農家が多い匝瑳（そうさ）市は
栽培面積日本一！

※匝瑳市は、植木の栽培面積で日本一の自治体

▲匝瑳市役所脇の「庭園見本園」の看板。

匝瑳市の植木生産は明治時代に始まり、大正時代になって職業として成り立つまでに発展しました。しかし、当時の植木生産農家は、わずかに5～6戸ほどで、限られた富裕層向けの小ぶりな観賞樹木を細々と生産しているような状態でした。そのような中、大正12年に大阪府池田の植木買い付け業者・阪上亥之助が病害虫や寒さに強い匝瑳地方のイヌマキに注目し、これを関西方面に出荷したことがきっかけで、樹木生産が日本全国に広がっていきました。現在では、匝瑳市は日本有数の栽培面積と多種多様な栽培樹木を誇り、日本国内ばかりか、中国やヨーロッパ諸国にも輸出しています。

また、植木のまちならではの風景として、市内のいたる所で匝瑳市の木でもあるマキの木を使った「槙塀」が造られています。槙塀は、砂塵よけや暴風林としても効果的な樹木で、市内では最大で高さ7mを誇るマキの生け垣を見ることができます。植木のまち・匝瑳では、毎年、5月上旬に植木の即売会でもある「匝瑳市植木まつり」を開催しています。多彩な植木はもちろん、草花や観葉植物、鉢植えや苗木なども格安で買える人気のイベントになっています。

▲匝瑳市らしい風景のひとつ「槙塀」

千葉県植木伝統樹芸士（じゅげいし）と植木銘木100選

千葉県では、伝統的な植木造形技術と知識をもった優秀な植木生産者を認定する「千葉県植木伝統樹芸士」制度を平成14年から制定しています。地域で優れた植木の生産を行うだけでなく、植木や緑化に関するアドバイスなどを行っている優れた植木のエキスパートとして平成26年3月末までに49人の植木伝統樹芸士を認定しています。また、本県の卓越した樹芸技術によって30年以上栽培された芸術的品位と風格ある庭園植木を選ぶ「千葉県植木銘木100選」の認定も行っています。

●千葉県植木銘木100選の一例

▲認定第1号
（佐倉市西志津）イヌマキ

▲認定第22号
（市原市村上）ヒラドツツジ

▲認定第42号
（東金市西中）ゴヨウマツ

▲認定第56号
（匝瑳市平木）モッコク

▲認定第67号
（匝瑳市東小笹）アカマツ

インタビュー

匝瑳市産の植木は、生まれ変わった東京駅の外観を演出しています。誇りある匝瑳の植木産業の明日を担っていきたい！

匝瑳市植木組合会員・青年部
伊能 成好さん

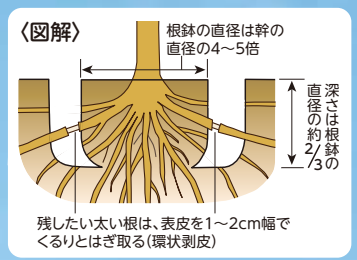
植木生産農家に生まれ、祖父や父が植木作りをしているのを見ながら育ちました。子どもだったので、ユンボ（パワーショベル）を使って仕事をしているのを見るのが嬉しくて、自分もいつかやってみたいと思っていました。20歳から植木生産の世界に入って14年。今、日本では住宅の洋風化が進み、日本庭園のある家が少なくなっているので、日本をマーケットにした植木産業はなかなか大変な時代を迎えています。そんな中で私は、中国や台湾などから買い付けに来るバイヤーを介して、植木の輸出を行っています。生きている樹木の輸出には、それぞれの国で決められた検疫の決まりがあり、それらをきちんと守って害虫対策をしたり、根のケアをしたりしなくてはなりません。でも、自分が自信を持って育てた植木が海を超え、遠い外国で人々の目に触れ、愛されているのかと思うと大きな喜びとやりがいを感じます。また、現代の街と植木の融合という点で代表的なのは、東京駅前に植栽された松です。あれは匝瑳市産の植木なんですよ。明治時代の洋風建築の存在感に負けない美しい佇まいですよね。洋風建物や都市空間と植木の組み合わせも新鮮だと思います。

▲東京駅前にも匝瑳市の植木が。

ここが大事！

移植を成功させる植木の根回し！

木も植え付けて5年ぐらい経つと、当然根も伸びます。移植する時には大きく張った根を切ることになるので、先端を切ってしまうと水を吸い上げられず、枯れる可能性もあります。そこで、移植の数ヶ月前から1年前ぐらいに幹の直径の4～5倍の根回りを、幅20cmぐらい掘り下げ、張った根を3～4本残し、他の根は溝の内側で全部切り取ります。残した根の露出した皮をはぎ、根鉢の直径2/3まで掘り下げ、元のように土に埋め戻します。数ヶ月放置すると、切った根の先と皮をはいだ部分から細い根が発生します。これが移植のための根回し。新しい細根がたくさん発生すれば、移植も失敗しません。このことから、物事を行う際に事前に関係者からの了承を得ておくことを指す言葉にもなりました。



匝瑳市は巨木の数も全国でトップクラス!

▲安久山(あぐやま)の大シイの木

植木は、その昔から日本人にとって身近な存在であり、それぞれの家の守り神として大切に崇(あが)められてきました。植木のまち、匝瑳市は同時に長い歳月を生き抜いてきた巨木がたくさんあるまちとしても全国でトップクラスに君臨しています。市内に今なお存在する神秘的な老樹や巨木は、寺社や一般の民家の庭先などで見ることができます。

たとえば、匝瑳市の天然記念物になっている樹齢1000年以上といわれる"大スダジイ"は、安久山地区の民家の裏庭にあります。高さは25m、幹周り10mもあり、千葉県では最大級、全国でも5本の指に入る巨樹として知られています。幹のうねりや板状の根が、気の遠くなるような歳月を生きてきた逞しさと生命の神秘を感じさせます。また、市内松山の集落にある松山神社には、社殿の手前に樹齢800年を誇る堂々とした佇まいの大杉の勇姿が見られます。苔(こけ)むした根本には、この地域の人々の暮らしを見守ってきた魂が感じられ、心が癒やされます。里山に点在する数々の巨樹を巡る散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。市内の巨木の見どころは、お問い合わせください。

▲松山神社大杉

●問い合わせ／**匝瑳市産業振興課**　TEL.0479-73-0089

植木の街で見つけたお薦めグルメ&お土産

◎イワシ丼……¥700(税込)

九十九里ビーチライン沿いにあって、新鮮な魚料理が味わえる店。一番人気のメニューは、地元で獲れた活きのいいイワシの刺身と薬味が効いた海鮮丼。イワシだけでイケるのは鮮度がいいからこそ。

●問い合わせ／**岩　沢　荘**
TEL.0479-67-3564
匝瑳市野手17125
営業時間／午前11時～午後10時
定休日／不定休

◎若潮牛ステーキセット(200g)……¥3,600(税込)

「若潮牛」とは、黒毛和牛のオスと乳用牛のメスとの間に生まれたブランド牛。肉質の柔らかさと口に含んだときの風味の良さと旨味は、ステーキに最適。遠方から、これ目当てに来る人も多い!

●問い合わせ／**きゃにおん**
TEL.0479-72-0563
匝瑳市八日市場ホ3217-12
営業時間／午前11時～午後2時30分
午後5時～午後9時
定休日／月曜日

◎初夢漬

秋ナスを秘伝の砂糖汁で煮込み、雪のような砂糖をまぶした220年の歴史を誇る名菓。正月の縁起物なので、年末出荷に合わせて仕込みは秋以降になります。

○鶴泉堂
(8～10個入)……¥1,851(税込)
○坂本総本店
(10個入)……¥1,990(税込)

●問い合わせ／**鶴泉堂**(かくせんどう)
TEL.0479-72-0018
匝瑳市八日市場イ2871
営業時間／午前9時30分～午後6時
定休日／水曜日

坂本総本店
TEL.0479-72-1325
匝瑳市八日市場イ2474
営業時間／午前9時～午後6時
定休日／水曜日

知ってる? 知らない?

●匝瑳市周辺インフォメーション!

見どころスポット!

飯高檀林跡(飯高寺)

天正8年(1580年)に開設され、明治7年(1874年)まで名僧を輩出した日蓮宗最古で最大、最高の学問所として、その名は全国的に知られています。最盛期には600人を超える学僧が学んだと伝えられていて、現在の立正大学の前身でもある日本最古の大学とも評されています。「講堂・鐘楼・鼓楼・総門」は国指定重要文化財です。境内の杉などの巨木群も多くの人々を魅了する存在で、パワースポットとしても人気。「檀林」とは、僧侶の集まりを林にたとえた寺院の尊称で、「飯高檀林跡」の名称で千葉県指定の史跡にもなっています。

八日市場駅前の古き良き街並み

房総半島の東側で銚子に近い九十九里海岸の北側に位置する匝瑳市八日市場は、その名の通り、江戸時代に8のつく日に市が開かれたまち。今も駅前の旧道を歩けば、黒漆喰(くろしっくい)塗りの土蔵造りの商家などが点在する趣きある街並みが続いています。落花煎餅の老舗「坂本総本店」(写真)、昭和初期の面影を残す看板建築の「新井時計店」、母屋と石倉庫のある和菓子店「鶴泉堂」の3つが国登録有形文化財になっています。

●問い合わせ／**匝瑳市産業振興課**
TEL.0479-73-0089

取材協力・写真提供・撮影協力／千葉県農林水産部生産販売振興課園芸振興室　匝瑳市産業振興課　匝瑳市植木組合

2014.9(次回発行／2014年10月23日)

京葉銀行

ホームページでバックナンバーもご覧いただけます。
京葉銀行　千葉の日本一　検索